



さし くま まもる
指熊 衛

兵庫教育大学附属小学校
教諭

●「理論と実践の融合」に関する共同研究活動とは
兵庫教育大学のミッションの一つである「教育実践学
の推進」をより一層図り、その成果を国内外に発信
し、学校現場や教育委員会のニーズに応えるため、平
成23(2011)年度から「理論と実践の融合」に関する
学際的な共同研究を教員から公募し展開しています。

研究レポート

地域における算数の授業研究会を通じた、 教師の力量形成プログラムの開発

(平成27・28年度「理論と実践の融合」に関する共同研究活動に採択)

本 研究では、附属
小学校教員を

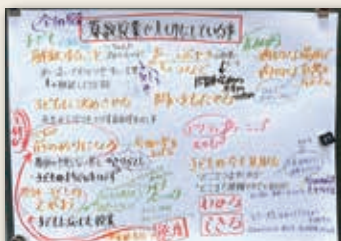
中心として立ち上げた
地域における算数授業
研究会「共に算数を語
る会」が、授業研究を
中心とした活動を通
して、どのように若手
教員が力量形成してい
くのかを明確にするこ
とを主な目的としてい
ます。同会は、算数科
教育を中心としてい
ますが、学校教育全般に
わたることも対象とし
ます。自身の教育実践
を語り、そして他者の
教育実践を聴く場、言
い換えれば、互いの教
育実践を語り合う場と
して設立した授業研究
会です。具体的には、昨
年度は「授業ビデオの
事例研究」「教材研究」
「学会や研究発表会
への参加」「実践発表」
「書籍作成」の5つの
活動を行いました。この
プログラムが教員の力
量形成にどのように有
効であったのかを「表」
に整理しました。

【表】教師の力量形成プログラム

活動内容	力量形成
(1) 授業ビデオの事例研究 (授業の映像を見合い、グループで意見交換する)	▶ 授業を見る視点が增える。 ▶ 授業で使う言葉が増える。 ▶ 自分の課題を知る。
(2) 教材研究 (全国学力調査を分析し、指導案を作成する)	▶ 視点を増やした段階で、自分自身の手で指導案「ボイスチャート」を作成する。 ▶ 分析や指導案を作成するプロセスの中に自然と算数の教材研究が入ってくるので、教科研究の力がつく。
(3) 学会や研究発表会への参加	▶ 新たな視点を入れる。 ▶ 外部での実践の紹介や意見をもらうことで、知見を増やし学びを深めていく。
(4) 実践発表 (自身の1年間の実践をまとめ、プレゼン発表する)	▶ 1年間、自身が実践してきたことを整理する。 ▶ 自分の成長の実感と次への課題の明確化をする。
(5) 書籍作成 (自身の実践について分析し文章にまとめる)	▶ 書く活動を通して、自分の実践を振り返る機会になる。 ▶ 授業の発話記録を書き出すことで、客観的に自分を振り返ることが出来る。 ▶ 書く活動の途中で関係した文献を読むので、実践と理論がつながっていく。



授業ビデオ視聴の様子



グループの意見を整理した模造紙



グループで意見を交換する様子



作成した書籍「『この子の算数に培い 拓く子どもの声で授業をデザインする』」

【表】のような授業研究会のプロセスの中で、若手、中堅教員、メンターなどさまざまな立場の教員が共に高め合っている関係性が重要です。つまり、若手教員とメンターの関係が、教えてもらう・教える関係ではなく、共に高め合う関係であることが重要です。学習会に参加して聴くだけで、力量がいったような感覚になりませんが、本当の力量形成にはなかなかつながっていないのです。やはり、【表】の(1)～(5)の多様な活動を、段階を追って経験していくプロセスが一人一人の力量形成につながっていくのです。